

令和5年度 第1回甲賀市文化のまちづくり審議会 議事録

日時 令和5年(2022年)4月27日(木)

14:00~16:00

場所 あいこうか市民ホール練習室3

出席者 委員 今西委員、梅本委員、福井委員、瀬古委員、大野委員、河尻委員、山下委員
以上7名
事務局 教育委員会事務局 柚口部長、松下次長
社会教育スポーツ課 伊東課長、岡崎参事
上村課長補佐、藤田主査

傍聴者 なし

審議会委員12名のうち、出席委員が7名であることから、甲賀市文化のまちづくり審議会規則第3条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

1. 開会

柚口部長 あいさつ

2. 協議事項

大野会長 あいさつ後、議事進行

(1) 令和4年度の文化施設の活動経過

- 資料1 令和4年度 自主文化事業実績
- 資料2 市民文化ホール利用回数、人数
- 資料3 文化協会団体数
- 資料4 甲賀市図書館(5館)来館者、貸出冊数

① 自主文化事業実績について (事務局から説明)

- ・展示室サロンコンサート
5月28日(土)、8月7日(日)
コロナ禍以前から取り組む事業で、段差のない展示室を活用し、クラシックを聴いたことがない人や、子どもに聴かせたい人など、気軽に体験したいといただくコンサートで、コロナ禍以降は、たびたびライブ配信を取り入れている。
- ・清塚信也ピアノリサイタル
7月23日(土)
令和3年度に実施する予定であったが、コロナ禍でスケジュールが変更し、令和4年度になって実現したもの。
- ・JAZZ from NEWYORK
8月11日(木・祝)
ニューヨークを拠点に活躍する滋賀出身のジャズ演奏家の来日公演を継続していたが、コロナ禍で途絶え、3年ぶりに開催となった。

- ・甲賀芸能祭～旭堂南湖 滋賀県文化奨励賞受賞記念 ふるさと凱旋公演～
9月27日（火）～30日（金）、10月1日（土）～2日（日）、15日（土）～16日（日）
令和3年度に滋賀県文化奨励賞を受賞した、甲賀市出身の講談師、旭堂南湖のふるさと凱旋公演。南湖氏の企画で、東西から講談師、落語家、浪曲師など30人が日替わりで来場。8日間も高座を実施するのは県内でもめずらしい事業となった。また、有料チケットのライブ配信は、甲賀市発となった。
- ・六古窯サミット アートピアノライブ
10月8日（土）～10日（月・祝）
アール・ブリュット作品を描いたピアノを活用して、六古窯サミットとなった信楽産業展示館ロビーで3日間開催。2日目に出演したピアニストの松尾優は、自身のオフィシャルインスタグラブで、一部の模様をライブ配信し、事前告知がなかったにもかかわらず、約600人の視聴を得た。
- ・イルカ・トーク&ライブコンサート
11月19日（土）
このコンサートから、客席は100%収容可能とした。地元の合唱団は、コロナ禍では活動が十分できなかった分野の一つだが、このコンサートは、イルカと共演を希望する団体、個人を募り、一日だけの合唱団として市民参画をいただいた。
- ・「音楽の絵本」～くるみわり人形～0さいからのおんがくかい
12月18日（土）
乳幼児を育てている家族が、なかなかでかける機会がないことから、初めての企画となったが、来場希望者はすぐに定員に達した。今後も需要がある内容であることから、継続の意向。
- ・アール・ブリュット魅力発信事業
教室はミュージアム9月～1月に市内小中学校を巡回
企画展2月3日（金）～5日（日）
子どもたちにアートが届いていないという昨年度の課題から、市内小中学校へアートを持ってアウトリーチし巡回した。この企画は、新聞やNHK-E TVの番組でもとりあげられた。成果物として、写真集のような冊子を制作したが、事業終業後も、子どもたちがいろいろな場面で振り返りに使ってもらうことを意図した内容になっている。
- ・金の卵プロジェクト ハラミちゃん トーク&ライブ
従来の往復はがきでの申し込みに加え、LINEでの申し込み受付も初めて行った。
ステージではアートピアノを演奏してもらい、ロビーにもアートピアノを設置し、終演後も来場者がストリートピアノとして楽しんだ。

②文化協会団体数

現況説明

③書館の来館者数、貸出冊数

実績説明

質疑

- ・無料の事業が多い。少しでもいいから、無料のものを有料にしていくことも考えては。
(会長)

- ・ハラミちゃん、来ていたのですね。
(委員)

- ・金の卵プロジェクトは、市内の小中学校、場合によっては保育園、幼稚園の子どもたちと保護者を対象としたインナーのプログラムであるため、学校を通じてチラシを子どもたちにお渡しし、一般広報はしていない。
(事務局)

- ・甲賀市のLINEはどのようにすれば見られるのか。
(委員)
- ・広報こうかなどのQRコードを読み取って登録できる。紙面の場合、2か月前には原稿が必要だが、LINEは柔軟な対応ができる。現在1万4千人が登録している。
(事務局)
- ・事業実績を見ると、横ばい傾向にある。有名な人を呼べば数字は上がるが、中身が大事だと思う。
(委員)
- ・コロナ禍にもかかわらず、横ばいにあることは、逆によいことではないか。工夫はしておられるので、これからも工夫し続けていければよいのではないか。
(委員)
- ・コロナの影響をまったく受けていない平成30年度の180団体に対し、令和4年度は147団体と、かなり減っている。また、減っている原因としては、高齢化が進んでいることも原因の一つであると、文化協会からは聞いている。
(事務局)
- ・今は、いろんな意味での巻き返しのチャンスかもしれない。文化協会の団体数は減っているが、若返りや団体数を増やしたいという意識が強くなってきた。
(委員)
- ・忍の里プララの甲南情報交流センターの利用者数が減っている。その分、土山文化ホールに利用が移っているように見える。
(委員)

(2) 令和5年度事業計画について
(事務局から説明)

- ・0さいからのコンサート
昨年度に続き、継続して行う。開園時間を午前11時とした。これは、午後の公演はお昼寝の時間帯となることが前回のアンケートで気づいた点で、意見を参考にしている。
- ・ニューイヤーコンサート
一年ブランクがあったが、再開する。あいこうか市民ホールが県立文化芸術会館だった頃に始まった事業で、今年はないのかとの問い合わせが多数あったもの。
- ・まちおこし音楽祭
実行委員会が令和4年度に、水口中央公民館の鹿深ホールで初めて開催されたが、今年度は市民提案協働事業に採用され、市民ホールが協働で行うことになった。

質疑

- ・音楽が多い理由は？
(委員)
- ・感染対策が取りやすい内容を、今年度も選んでいる。

(事務局)

- ・作家や団体が個展やグループ展が小規模でできる場所はあるのか？

(委員)

- ・信楽の伝統産業会館で展示できる場所がある。また、私設のギャラリーも信楽にはある。信楽には、シェアスタジオという、作家が作品を制作でき、展示もできる場所がある。また、市役所1階の一角に展示スペースがある。駅にも展示できる場所がある。図書館でも展示をしている。

(事務局)

- ・市民センターの空きスペースを活用できないだろうか。

(委員)

- ・ロビーなどでは使っていただけるが、特定の場所は条例で貸し出しができるようになっている場合に限る。

(事務局)

(3) 文化・芸術に関する条例の制定に向けて

条例に関しては、平成30年から、文化芸術の条例とはどういうものか、また必要性についてなどの検討から始まって、これまでご協議いただいていた。来年が合併して20年になるので、そのタイミングで、来年の9月議会で上程したいと考えている。

市民憲章は合併した翌年にできたが、そこには、「彩る山河と 生きいき文化」「生み出す活力 うけつぐ伝統」と定められている。

また、2025年には大阪万博が予定されているが、この年に甲賀市で「表現祭」という事業を考えており、これにむけて文化芸術振興をしっかりと進めるための内容を盛り込みたいと考えている。

(事務局)

ビジョンが必要だと言いつけており、5年10年先のビジョンの話ができていない中で条例の検討だったので、これまで時間をかけてきたのはよかった。

(委員)

広報がうまくできないので、困ることがよくある。

(会長)

甲賀市のホームページには、市内のSNSなどの情報を自動的に集めてきて、カテゴリー別に検索できるページを作っているの、ご利用いただければと思う。

(事務局)

公民館を利用しており、SNSを使わない高齢者のささやかな楽しみであるが、利用料金が高くなるのが心配。

(委員)

外から呼んでくる催しも大切だが、市内で活動している人に声をもっとかけてほしい。声がかかるのは、京都、大阪が多い。市民が市内でも活躍していることで、ここで仕事としていけると認められていくことにつながる。

(委員)

市内に、地元アーティストがいるということをもっと知らせる必要がある。
(事務局)

守山市民ホールホームページではアーティストが写真と経歴付きで紹介されているページがあるが、地域の人も誰かを知りたいときに探しやすい。
(委員)

今作ろうとしている条例は、そういうものが必要という意味のことが含まれているので、そのためにも条例ができることは意味がある。
(委員)

閉会

福井副会長 閉会あいさつ